

今号の
トピックス

■THInet 共同代表・田澤雄作氏からのメッセージ 「言葉と映像メディア～人間の進化と未来への新たな祈り 明日の子どもや大人に伝える～人は何処にいくのか」

今号は、田澤雄作氏(ネット健康問題啓発者養成全国連絡協議会(THInet)共同代表 元仙台医療センター小児科部長)からのメッセージ(抜粋)をお届けします。田澤氏は現在闘病生活を送っておりますが、「THInet の皆さんへのラストメッセージ・論説『言葉と映像メディア～人間の進化と未来への新たな祈り明日の子どもや大人に伝える～人は何処にいくのか』」と題したメッセージを病床から寄稿されました。

「最後に子どもの明日・未来を想う時 戦争のない平和な世界を願う時 今必要なのは言葉
ねむり 身体運動 そして森羅万象への静かな“祈り”とを感じる。」と結んでいます。

※全文は THInet の HP でご覧ください。



◇はじめに

人は何処へいくのか。人間は脳とこころ(身体)を獲得し、生きる。家庭の内外で、幼い感情が爆発しないように、コントロールできる抑制力を獲得し、社会的習慣を学びながら子ども期を過ごし、それまでの多様な経験・体験の中で成熟し、家族や隣人と共に生きる。1950年以降、大人も子どもも次々と登場するテレビ・ゲーム・スマホにのみこまれ、それらの弊害に気づきながらも放置し、コミュニケーション力が衰退した。子どもらの健やかな成長とその未来の幸せのために私たちにできることを再考したい。

◇国を挙げての読書推進～夢か幻か？

2004年、日本政府は子どもの権利条約を批准した。この頃学校(教育)は、行き過ぎた進学競争や学習塾通い、部活動に走りだったが、国を挙げての読書推進も謳われた。しかし、環境の問題があり、読む子どもと読まない子ども(テレビ・ゲーム・スマホで時間を潰す)子どもの二極化を残した。過度な進学競争は受験産業に追従し、受験のために、読む・考える時間を削り落とす覚えドリルが採用された。

◇映像メディア

1960年代テレビに人間の自由な視線と時間を奪われ、大切な家族や友だちとのコミュニケーションの時間や睡眠時間までが奪われ、慢性的な心身(脳と身体)の疲労を気づきながらも問題の解決は後回し、その重度を深め、最後に子どもの成長・発達に必要な大量の時間を奪われた。

◇子どもの発達

人間は、唯一言葉(と理性)を備え進化した。多様な文化の中で、三つ子は魂を持ち、7つまでは万能な神の子とみられていた。3歳の子どもは大人の手を離れ、7歳の子どもは大人と同じように話せるようになり、人間の子どもは難解な思春期を超えて、人間の心をもつ大人となる。その発達を中心に前頭葉がある。ほかの脳の領域とはことなり、30歳までの時間をかけて成熟していく。

◇絵本・本

テレビなどの映像メディアから流される「大人の秘密」、暴力、殺人、性的情景は、子どもにはある年齢までは晒してはいけない。死さえ子どもへの暴露をあれだけ慎重に取り扱った文化は消えている。絵本(おとぎ話)の重要性は、精神的な痛手なしに悪の存在を子どもが統合できるような形を示す力である。おとぎ話が語られる心理的背景には、いつも安心していられるもの、治癒力があるからである。

◇メディアとしての言語

人間は「言葉と理性をもつ動物」である。個々の言語は、音声や文字により表現されるため、聴覚や視覚という感覚的能力の制約をうけるため、言理性的な思考を表現しながらも、音声的・文字的記号という物質である。言語は精神と物質という異なる領域にまたがり、両者をつなぐ働きをしている。言語が生き生きと働くのは、私が何かを話題にあなたに話しかけ、相互の応答がなされるような対話の場であり、言語を通じて社会性を身につけ、教養(自己形成)を促す。